

日本ペンクラブ企画 《ふるさとと文学 2017》

静岡新聞 創刊75周年 静岡放送 開局65周年 記念

日時 10月8日(日) 開場13:00 13:30~16:30

会場 伊豆市民文化ホール(修善寺生きいきプラザ)

定員500名(伊豆箱根鉄道駿豆線「修善寺駅」から徒歩10分)

川端康成 の伊豆

ご挨拶 吉岡忍(日本ペンクラブ会長) 菊地豊(伊豆市長)
第1部 映像ライブ「赤い薔薇の目になって~川端康成
の人・作品・世界」

脚本構成:吉岡忍(作家) 映像制作:四位雅文(映像作家)

人形製作:山本高樹(ジオラマ作家)

語り:神田松鯉(講談師) 作曲演奏:小間夕起子(箏・三弦)

第2部 川端康成『掌の小説』より

朗読:樹木希林(俳優)

第3部 座談会「川端康成の伊豆・日本・世界」

浅田次郎(作家) 下重暁子(作家) 野中柊(作家)

ドリアン助川(作家)

稲穂照子(福田家女将) 宇田治良(白壁荘当主)

第4部 演奏ライブ「川端康成の伊豆/印象曲」

古庄由喜子(オカリナ) シモヤマエイジ(キーボード)



入場無料 [参加申込み方法] 往復はがき、メール、FAX(書式自由)に「川端康成の伊豆参加希望」と記し、氏名・郵便番号・住所・電話番号・同伴を希望される場合は同伴者の氏名(1名まで)を明記し、

◆〒410-2592 伊豆市八幡500-1 伊豆市社会教育課
までお送りください。9月25日(月)必着(応募者多数の場合は抽選)。

◆電話 0558-83-5476 ◆FAX 0558-83-5498

◆メール bunka@city.izu.shizuoka.jp

主催 日本ペンクラブ 伊豆市 河津町

共催 静岡新聞社 静岡放送 サンフロント21懇話会

十九歳の若者は旅に出た。
寄る辺なき身をもてあまし、
天城の隧道を南へ抜けた。
伊豆は詩の国であると、世の人は言う。
彼はそこで旅芸人の一行に出会った。
それから八年――。
大地震に襲われた首都の廃墟に、
車が走り、飛行機が飛び、ラジオが鳴った。
新しい景色に、新しい感覚がめざめる。
彼は、いのちを見つめる目になって、
あの伊豆の旅を書き始めた。



●…川端康成は1899（明32）年、大阪府で生まれた。幼少年期に両親と姉と祖父母を亡くすが、内外の小説を耽読し、やがて東京に出て、一高、東大に進む●…〈孤児根性〉の憂愁から、伊豆を旅したのは19歳のとき。以後、第二の故郷・伊豆を舞台に多くの小説やエッセイを書く●…若い仲間とカフェに通い、芸術談義をするうち、15歳の少女に恋し、婚約するも破談。その傷心に、1923（大12）年の関東大震災が追い打ちをかけた●…廃墟で目覚めた〈新感覚派〉は伊豆の踊子と初恋の人の〈少女の持つ危険〉を探り当て、川端文学の萌芽となる●…30代から鎌倉に住し、旺盛な執筆活動が続けながら、北條民雄、三島由紀夫などを世に送り出す●…伝統的美意識に根ざしながら前衛的であり、写実をこらしつつ幻想を描き、反社会的な人間の欲望に惹かれる一方で国際的な社会活動をいとわぬ、妖しくも複雑な作家である●…代表作に『伊豆の踊子』『雪国』『千羽鶴』『山の音』『眠れる美女』『片腕』など（新潮文庫）●…日本ペンクラブ第4代会長（1948-1965）。1968（昭43）年、ノーベル文学賞受賞。1972（昭47）年、逗子市のマンション自室で自死。

踊子「ほんとうにいい人ね。いい人はいいね」

★神田松鯉

講師

群馬県出身。新劇・歌舞伎の舞台を経て二代目神田山陽に入門。1977年真打、92年三代目神田松鯉を襲名。新宿末廣亭・上野広小路亭・国立演芸場等で熱い高座を勤める。



★樹木希林

俳優

文学座演劇研究所第一期生。独特な雰囲気個性派女優として活躍。日本アカデミー賞最優秀主演女優賞など受賞。『神宮希林』等、ドキュメンタリー出演にも意欲的。



★下重暁子

作家・エッセイスト

早稲田大学卒。NHKアナとして活躍後、フリーに。民放キャスターを経て、随筆、ノンフィクション、小説等の文筆活動に。財団法人JKA元会長。日本ペンクラブ副会長。



★ドリアン助川

作家

放送作家、バンド活動を経てNYへ。帰国後、深夜ラジオのパーソナリティー。小説『あん』は映画化もされ、カンヌ映画祭で上映。同作はフランスのDOMITYS文学賞受賞。



★古庄由喜子

オカリナ

富士市出身。洗足音大在学時はバロクリコーダーを専攻。シモヤマエイジと組む「フォーマルハウト」ではオカリナ等の笛を演奏し、関東甲信越を中心にライブ活動を展開中。



★小間夕起子

箏・三弦

山田流箏道家。東京藝術大学邦楽科卒業。NHK邦楽技能者育成会第42期修了。河東節三味線名取「山彦夕起」。第10回長谷校校記念全国邦楽コンクール優秀賞を受賞。



★浅田次郎

作家

『鉄道員』で直木賞受賞。多彩な作風で読者を魅了し、司馬遼太郎賞、吉川英治賞、毎日出版文化賞、朝日賞など多数受賞。2015年紫綬褒章。日本ペンクラブ前会長。



★野中柊

作家

立教大学卒業後、渡米。NY州在住中に海燕新人文学賞を受賞。小説『ヨモギ・アイス』『ダリア』の他、童話やエッセイ、R・ブラウン『お馬鹿さんなふたり』等の翻訳も手がける。



★稲穂照子

福田家女将

河津町出身。昭和女子大学卒、現在は理事・評議員。若き日の川端康成が旅芸人一行に会った翌朝、浴場から飛び出してきた踊子が手を振る姿を見たのが、福田家。



★シモヤマエイジ

キーボード

早稲田大学在学中からニューミュージック系歌手のツアーやレコーディングに参加。「フォーマルハウト」では鍵盤を担当。モットーは「もっとわかりやすく、楽しい音楽を」



★吉岡忍

作家

長野県出身。早稲田大学在学中に反戦運動参加後、数十カ国を取材。『墜落の夏』で講談社ノンフィクション賞。放送倫理検証、番組各賞の委員を歴任。日本ペンクラブ会長。



★四位雅文

映像作家

鹿児島県出身。北海道大学大学院卒後、びあ、米CBS-NEWSを経て、映像ディレクターとして独立。報道番組制作の一方、日本ペンクラブ主催の舞台映像に新境地を拓く。



★山本高樹

ジオラマ製作

映画・CMの美術製作を経て、2001年に造形家として独立。各地の古い町並みや民家取材、「昭和の心象風景」の制作を本格化。NHKドラマのジオラマでも人気を博す。



★宇田治良

白壁荘当主

民話と民芸の宿を経営。川端康成や井上靖らが愛した湯ヶ島の文学の郷づくりに取り組む。訪れた人々に地元ならではのエピソードを語る文学散歩の案内人も務める。



★菊地豊

伊豆市長

伊豆市出身。防衛大、自衛官、在独大使館勤務を経て2008年市長。今回は「湯の煙の向こうに人の生き様を描いた文人の足跡を追う旅を、私たちと一緒にしませんか」と訴える。



協賛

全農 全国農業協同組合連合会

セブン&アイHLDGS. セブン&アイ・ホールディングス

大日本印刷 共栄火災海上保険 新潮社



一般社団法人 日本ペンクラブ

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 20-3
http://www.japanpen.or.jp/